

- 6、審美的教育は單に兒童に娛樂又は遊戯を興える如きものではない、人生必然の相にふれしめる所に着眼せねばならぬ。
- 7、現代社會狀態は動もすると功利的偏智的な人間の多き有様である、美的教育は兒童を本來の世界に解放して最も純真な生れながらの状態より統一ある調和的人間にまで仕上げる所に價值がある事に注意せねばならぬ。
- 8、兒童の創作は必ずしも藝術的創作ではない、眞に藝術的創作は自己獨得の形式を具へたものである、子供の作は模倣が多い、然し模倣でも其自我を自己の形式で表現する點に於て創作である事を認めねばならぬ。

C、正科教育

國語科

一、要旨

國語は普通の言語日常須知の文字及文章を知らしめ正確に思想を表彰するの能を養ひ兼ねて知徳を啓發するを以て要旨とす。

二、要項

A、讀方科

國語科の目的は要旨によりて明である通り形式的目的と實質的目的とあるが今日讀方及綴方に對して藝術的價值の上から之れを尊重している事は論ずる迄もない事である、従つて國語科を知育部に入れないで美育部に入れる事も當然の事と云わねばならぬ、然し讀方の如きは其各課に於て目的を異にし知的なる場合と藝術的なる場合とある、従つて其取扱に於ても異なる場合ある事に注意せねばならぬ。

- 1、知的教材と情的教材との別によつて着眼點及取扱を異にせねばならぬ。
- 2、客觀的讀方より主觀的讀方に漸次進展せねばならぬ。
- 2、學習は自由學習を尊重し各兒童が自己の力にて可能の範圍に於ける翫味考察をなす様指導する。

- 4、言語文章を正確且敏速に理解する能力を養う事に留意する。
- 5、文藝的材料に對しては其れによりて精神的糧を攝取し得る様導く。
- 6、形式輕視の弊に陥らず適當なる練習を行う。
- 7、鑑賞觀照共に了解を基礎とせねばならぬ。
- 8、辭書參考書の利用によりて讀書力を進め内容形式共に深く味う態度を作る。

B、綴方科

- 1、文題は自由選題を多くし體驗に立脚したる叙述をなさしめる。
- 2、課題法による指導も之れを行い其内容に於て兒童の自由なる構想をなさしめる
- 3、内容を限定し其記述をなさしめる事も重要である。
- 4、範文鑑賞を重視する。
- 5、相互研究をなさしめ批評及批評に對する意見交換を行わしめる。
- 6、話方と連絡し自己の思想感情を標準語にて言語に於て又文に於て正確明瞭且つ淀みなく發表し得る能力を養う。
- 7、形式上の欠陥防止に力を盡すあまり兒童の表現エネルギーを滅殺する如き事があつてはならぬ。
- 8、散文詩戯曲等各種に亘りて兒童の長ずる方面の表現成長を保護すべきこと。
- 9、文は作者の生命の躍動を尊び徒らに技巧に陥らざる様をなさしむ、技巧は眞に理解しての上のみ其價値を認めしめる。

C、書方科

- 1、手本によりて練習したる時は手本を離れて練習なさしめる。
- 2、成長物は相互的に批評をなさしめ自覺的に向上をはからしめる。

- 3、書狀封筒ペン書其他實際生活上必要なる事項の練習を充分になさしめる。
- 4、書法に於ては行書或は草書を多くし大字よりも細字の練習を重視する。
- 5、結構間架筆順の如きは兒童自ら工夫發見する様力めしめる。
- 6、硬筆練習を多くし實用に適せしめる。
- 7、和歌俳句等は色紙短冊等に書せしめ美的鑑賞をなさしめる。
- 8、書き方は一つの藝術である事を兒童に理解せしめ單なる提出物として清書するにあらずして如何に美的表現をなし得るかを着眼する様指導する。

D、美育施設

- 1、教室内の美化
教室内を美化整頓する事によりて兒童を美の環境中に生活せしめ以て溫雅なる感情を涵養する。

額面 四ヶ 花瓶 三ヶ

鉢植 二ヶ 繪葉書其他

其他背面板成績發表板、揭示板に至る迄相當裝飾を施す

2、展覽會

知育事業と連絡し圖書書方其他美育の參考となるべきものを展覽陳列し兒童をして鑑賞せしめる。

3、郊外探勝

四季折々に遠足し春は櫻花、夏は綠等四季の風情を觀照せしめ自然美による情操陶冶を行う。

4、清潔検査

身體服装教室學用品机上内に至る迄清潔状態を検査し清潔端正を保たしめ以て美的心情の陶冶をはかる。

5、其他

學校又は學年等に於て行わる藝術發表會、旅行遠足、等に於て或は創作表現によりて藝術心を高め、鑑賞する事によりて美的感を養い、或は大自然美に接して自然の偉大性を感受せしめる等其目的の徹底をはかる。

(四) 聖育

A、方針

眞善美の理想價值を統一し之れ等の價值生活の極致を體驗し、個人的自我を超越して絶對普遍的自我を捉え、自己の本源たる大生命に還らしむる事即確固たる人生觀を養い信念を持つ

靈的生活をなさしめんとす。

B、信條

- 一、確固たる人生觀より、深味あり意義ある生活をなすべく努力せしめる。
- 二、自然の神秘心靈の力に對する畏敬々虔の念を養う。
- 三、吾人の生活を享有するの有難味を自覺せしめ、愛慕感謝の念を養う。
- 四、祖先に對する敬虔報恩の念を養い同胞相愛の精神を發揮せしめる。
- 五、既成宗教に對する指導の意味であつてはならぬ、人生の教授として、人生に超越的に實在せることを、領會せられた體驗即宗教心を啓培する事に留意す。
- 六、宗教心の現れは日常の生活に於てなされる沒我的行爲、精神的生活をなし或は敬虔的感謝的態度等は何れも宗教生活である、兒童の之の生活を見逃さず益々助長に努力すること。
- 七、學級兒童の宗教的生活及び家庭に於ける宗教的指導には大して認むべき程のものはない、今後之れが指導に努力し超人間的偉大性を憧憬する生活へ誘導すべきである。
- 八、現世に満足せず永久の生命を以て樂みとする精神を啓培するに力める。

C、聖育施設

1、神社佛閣參拜

常に神社佛閣の前を通過する時は敬禮をなさしめ、又國家的記念日には忌部神社を參詣せしめ敬神尊佛の念を養う。

2、儀式

特に敬虔的態度にて參加せしむ。

3、藝術品展覽

宗教々育に適したる藝術品によりて崇高なる精神を養う。

4、神宮講演

神宮の講演を聞かしむる事によりて宗教を知的に理解せしめ宗教生活に對する渴仰の精神を起せしめる。

5、登山、臨海

深山に入り大森林を跋涉し、渺茫たる大洋に面せしめ、以て人爲を超越したる自然の偉大性を感得せしめ、超人間界の靈の威力を體得せしめ自然の神秘に對する敬虔の念を起さしむる。

6、兒童の日常生活

兒童の日常生活に注意し宗教的生活を發見し指導し以て自ら宗教生活に入るべき動機たらしめる。

7、其他

學校學年施設たる神宮遙拜神社參拜神社美化奉仕等其目的の徹底をはかる。

(五) 體育

A、方針

精神價値の價値實現は身體的價値の基礎の上に立つ事が大である、將來國民として創造的努力の大活動をなさんとするには頑強なる身體の所有に俟たねばならぬ、故に常に體育を重視し身體の鍛錬を行い以て困苦と激務に堪え得る身體たらしめんとする。

我學級兒童は一般に身體壯健であつて然かも運動の愛好者の多い事は嬉ばしい、然し單なる興味のための運動であつて自覺的體育でないかも知れない、茲に前記の目的に對しては自覺的に向上をはからしむるに力める。

B、信條

- 一、生理學の知識を與え自覺的に實行せしめる。
- 二、各自己の體質を自覺せしめ其向上に努力せしめる。
- 三、學校衛生設備を運用すること。
- 四、運動競技は氣力充溢をはかる。
- 五、意志を鍛錬し持久敏速勇往剛健の氣風を養う。
- 六、體育の必要を理解せしめ體育趣味の養成をはかる。

學級經營の根本義と其の立案の實

七、運動競技の旺盛と所謂スポーツ精神の發揮に留意し動もすれば忘却し易い運動精神の向上に力める。

八、身體的故障病弱兒等の取扱いは特に十分なる注意を拂う。

C、體育衛生要項

- 一、兒童の身體狀況につき毎朝十分注意を拂い詳細知悉すること。
- 二、休憩中の遊戯は激烈なるものをなさしめず。
- 三、常に戶外運動を奨励し屋内にて袖手傍觀する如きを禁じ積極的に向上をはかる。
- 四、運動時間の活用をはからしめる。
- 五、教室窓の硝子戸の開閉に注意し風雨寒暑に適應すべきこと。
- 六、寢食は急がすなし食後又十分な休憩さしめる。
- 七、家庭に於ける休憩、睡眠其他衛生上の事項に對し適當なる改善指導をする。
- 八、體育向上は運動時に限らず終日の生活特に學習時に於ける身體的姿態の大影響ある事に注意せしめ身體の均齊なる發育を障害する如き状態にあらしめざる様指導をする。
- 九、兒童の精神疲勞の程度につきて常に深き注意を拂うべきこと。

D、身體狀況調査

(1) 個人的調査

身長	體重	胸圍	概評	營養	背柱	視力	聴力	耳疾	齒牙	疾病	眼疾	注意すべき事	氏名
一六〇、 mc	四、二、 kg	七五、二、 cm	乙	甲	正	一、五、 一、五、		うし 三		白 鱗 屑	一、 ラ 輕 ム ホト	ト ム ホ	何 某
一四九、	三五、五	六四、八	乙	乙	正	一、〇、 一、〇、	難	うし 五			一、 ラ 輕 ム ホト	ト ム ホ	何 某
一五七、	四六、一	七七、	甲	乙	正	一、〇、 一、〇、					一、 ラ 輕 ム ホト	ト ム ホ	何 某
一四九、	三七、八	六〇、四	乙	乙	正	〇、九、 〇、九、					一、 ラ 輕 ム ホト	ト ム ホ	何 某
一五一、	四二、	七八、	乙	甲	正	〇、一、 〇、一、					一、 ラ 輕 ム ホト	ト ム ホ	何 某
一五四、	四八、	七七、	甲	甲	正	一、〇、 一、〇、					一、 ラ 輕 ム ホト	ト ム ホ	何 某
一四九、	三八、	七四、八	乙	乙	正	一、〇、 一、〇、					一、 ラ 輕 ム ホト	ト ム ホ	何 某
一五一、	四五、一	七四、	乙	甲	正	一、〇、 一、〇、					一、 ラ 輕 ム ホト	ト ム ホ	何 某
一四〇、	三二、四	六五、	丙	乙	正	一、〇、 一、〇、					一、 ラ 輕 ム ホト	ト ム ホ	何 某
一四〇、	三五、九	六七、	乙	甲	正	一、〇、 一、〇、					一、 ラ 輕 ム ホト	ト ム ホ	何 某

身體狀況調査

(2) 綜合的調査

身		長		體		重	
最大	最小	平均	全國平均以上のも	最大	最小	平均	全國平均以上のも
一六〇cm 何某	一三五cm 何某	四八、一cm	三三・七	五九、八kg 何某	三、二kg 何某	二〇、一kg	三〇
最大	最小	平均	全國平均同上以下のもの	最大	最小	平均	全國平均同上以下のもの
八二、八cm 何某	六五、〇cm 何某	七二、一cm	二九	一一			
胸		圍					

全國の平均數以上にある者の數に於て、身長より體量、體重より胸圍と漸減せる傾向の表れて居る事は即身長に於ては優秀であるが胸圍に於て身長に比較して劣等である事を證している事此點體育上注意せねばならぬ事である、胸部の運動を盛にし胸部發育を旺盛になす様努力せねばならぬ。

概評	營養	養	背	柱	視力
甲	乙	丙	甲	乙	丙
七	二四	九	一八	二二	〇
色	神	聽	力	齒	牙
紅綠色盲	難	聽	うしある者	三〇	
疾	病	疑似トラ	眼	疾	
癩	風	一	一	一	一
輕	重	中	二	一	一
健	右近	右近	右近	右近	右近
三三	一	六			

1、概評に於て甲の最小にして乙の最大なる點一考を要す。

眼疾患者の多きは大きな顧慮を拂わねばならぬ。

E、以上の状態に對する教授衛生事項

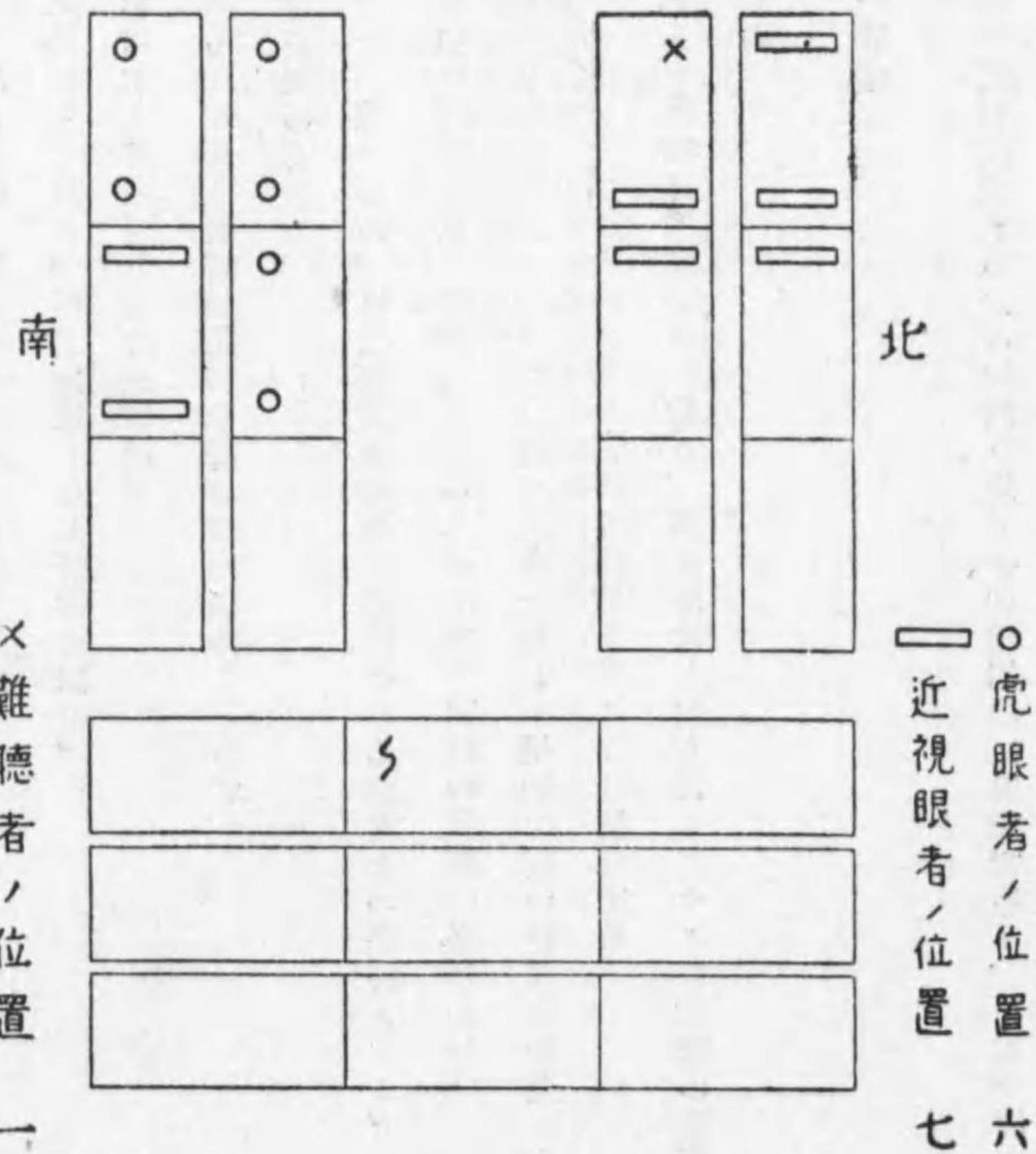
1、自己の缺點長所を自覺せしめ理解的に身體の向上をはからしめる。

2、背柱後屈兒童は机腰掛の高さを考慮しなるべく教室の中央に位置せしめる。

學級經營の根本義と其の立案の實際

- 3、眼疾患者は教室の兩側に集め掃除を免除する。
- 4、近視眼兒童は前方に位置せしめる。
- 5、白癬其他傳染病者は治療を奨励し其治療をはからしむ。
- 6、一般に口腔衛生に注意せしめ毎朝ハブラシを使用せしめる。
- 7、難聽兒童は最も前方に坐席を設く。
- 8、兒童の身體狀況は家庭に通告し父兄の注意を促す。
- 9、一般兒童の坐席は毎月變更するを通例とする。
- 10、机腰掛の距離は常に減又は無距離となし姿勢の端正をはからしめる。
- 11、晝食前には必ず手を洗滌し口をすすがしめる。
- 12、毎月一回以上衛生検査を行い頭髮、爪、皮膚、衣服等の清潔整備につき兒童の自覺を促す機會とする。
- 13、坐席表

教壇



F、室内掃除其他に關する事項

- 1、毎日硝子、机上、戸、腰板、腰排等の濕拭をする。
- 2、教室床面は濕拭をなし、而も一日二回以上なし清潔を保つ。
- 3、廊下は丁寧に掃にて一日三回以上はかしむ。
- 4、教室其他如何なる所にも紙屑鉛筆の削屑等は一切落さしめず、掃除後は必ず手を洗わしむる。
- 5、掃除後は其成績を一覽せしめ、自己努力の効果を感得せしめ訓育上の資料とする。
- 6、掃除其他清潔整頓は理解を以て積極的に行はしめ他愛的精神の發揮に努めしむ。
- 7、冬季氣候の寒冷なる時の掃除につきては特に指導をなし共働的に行い嫌惡の状態にあらしめずして清潔のため整頓のため骨身を惜まないと云う態度に出でさすことに留意する。
- 8、一般に掃除に限らず教師は兒童と共に働き、共に掃除をなし而してそこに作業の教育的價值を發揮するに努めねばならぬ。

G、時間編成上の要項

- 1、科任制の加味は時間割編成上多大の故障を生じ合理的編成は困難である、そこで出來得る限り最善の

工夫をなし其弊の減少なるに努めねばならぬ。

- 2、知的教科は出來得る限り午前中になし午後はなるべく技能科とする。
- 3、疲労し易き學科は連続しないこと

疲労順

- 1、體球 2、算術 3、國讀 4地理
- 5、國史 6、理科
- 4、視器發聲器等特殊の器官を多く使用する學科は連続せざること。
- 5、技能科の前には激烈なる運動を避ける。
- 6、季節によりて適當なる變更をする。
- 7、寺澤氏の講演による疲労と能率

知的作業……正午まえ能率大

筋肉作業……第一時及晝食後一時能率大

之の原理を配慮して作業時間を定むべきである

H、體育施設

- 1、冷水摩擦の奨励
- 2、薄着の奨励

3、身體服裝の清潔検査

毎月一回行ひ頭髮、爪、身體、着衣等の汚垢を調査し衛生と注意獎勵を加う。

4、所持品、携帶品の清潔を獎勵する。

5、早起早寝を獎勵する。

6、早朝運動及深呼吸の獎勵をする。

7、身體検査成績一覽表を教室に掲示し各自己の長所を知ると共に短所の矯正長所の助長を自覺的に行わしめる。

8、其他學校又は學年にて行はる、朝會體操、運動會、運動時體操、臨海生活、遠足、登山、夜行軍、自強會等の目的の徹底をはかる。

三、學習輔導六則

一、兒童の自覺と責任感とを促すに力める。

自己は今何を何の爲め學習せるか、其目的を自覺し自己の學習に對する責任感を持たしめる事は之れ兒童の發展の要件である、往々自己の學習に對する自覺なり無關心の状態で登校せる者がある、之等兒童に對して其日に於ける學習要項を試問するも不能に至る者は多くあるであらう、其日の學習に對し其時の學習に對し計劃を立て何者かを要めてやまんとする強き心が

あつて彼等の成長は具現化されるのであらう。

二、受容と表現との兩様を重視する

知識技能の收得、その實際化と活用それは其知識の確實性を増進する上から又應用せしむる上から肝要である、相互學習は之の長所を具えて居ると云つてもよい、自己の研究したる事項を發表し而して自己の知識を確實にし又他生の發表を聞く事によりて自己の新知識新受容をなす、之の點に於て相互學習を重視する、無論相互學習には欠點も多くある、其欠點短所は出來得る限り防止に力め一面大に其價値の發揮に留意せねばならぬ。

三、學究態度の助成に努める

自己の發展は自己の力でなければならぬ。與へられたパンよりも自己の汗にて得たるパンに於て價値がある。受け入れんとする用意なき所に如何に注ぎ込んでもそれは徒勞である、受け入れんとする用意ある所に於てこそ消化され効果はあがる、學究的態度は即之の受け入れんとする態度である自ら自己の力で學習せんとする其偉大なる力に教師の力が調和して始めて彼等兒童の急速なる成長は行われるのである、毎朝第一時の自習時に於ける學習の如き特に重視せねばならぬ、其他の學習に於ても常に學習のスタートは彼等兒童にあらしめねばならぬ、又自習の豫定表の作製、進度表の創作等を兒童に行わせるのも彼等兒童をして自ら研究する態度を作

らしむるの手段としたい。

四、常に事項の核心に觸れしめる事に努力する。

學習事項中には末梢的附隨的事項と、中樞的事項主眼的事項と自ら分れている、學習輔導には中樞主眼に向つて其徹底をはからねばならぬ、自由學習に於ける欠點は中樞を脱して末梢に走る嫌ある事である、兒童の自學自習に於ては之の中樞に向つて穿ちつゝ進むべく指導が肝要である、そのためには教師先教材に精通して此點だけはと云う核心を捕えて置かねばならぬ。

五、個性に即した輔導に留意する

學級四十人の兒童悉く同一のタイプではない十人十色は動かす事の出来ない平凡な眞理である之の個性の異つた兒童を一齊的に劃一的に同一軌條の速さで進ましめんとする點に於て大なる錯誤が生ずる、高等小學校の本質から考えて兒童の個性に生かしめること、如何に將來兒童が生活すべきか如何に個性發揮がなし得るかに着眼せねばならぬ、學科に於て云えば技能に長ずる兒童と知力に秀でたる兒童と同一なる理想の下に引きすり行かんとするなればそこに兒童の個性は殺され兒童は自失の已むなきに至らねばならぬのである、各兒童が先天的に具有する其長所はどこ迄も成長せしめる事に注意せねばならぬ。

六、参考書使用に關する留意點

自學主義自主的學習主義の教育を尊重するに於ては参考書の使用は實に肝要な事であつて又重要な問題である。

充分なる自由學習をなさしめんとするには参考書を離れては不可能である、然し又一面より考へると参考書があるがために充分なる思考をなさざる欠點を生ずる、此點参考書使用に對する顧慮點である、之れには参考書使用の時機を兒童に了得せしめねばならぬ其の時機とは教科書を十分研究し自力にて之れ以上如何ともなし得ないと云う時である、教科書と参考書とを共に出し教科書より参考書を先に見る如きは適當なる時機を得たと云えぬ、却つて参考書の悪用である之の點兒童に十分了解せしむる必要がある、所謂學究的態度の理解が必要である、従つて教授時には参考書を見るの要なき場合が多くて参考書を開くは最後の場合作ることとを理解せしめたい、又参考書は其種類の多き事多種に亘る事が必要である、従つてそこに教師が選擇して與へる事が必要なこととなる、第三學年の参考書は教科書に即したものは讀方一種算術一種理科一種あるのみで前述の如き多種の参考書を得るには頗る困難を感じる、然し學年が高いだけ中等程度の書籍を参考となし得るとか辭書辭典の類を多く使用せしむる事が出来る、我學級兒童の参考書活用は甚だ拙劣で所謂参考書の丸寫しや参考書に捕はれる事の欠點を持つのである、不幸學級經濟の關係上多くの参考書を得てはいないが其活用する事については大に指導

した。

二、學級教育促進要素

一、結果省察

常に教育結果省察に努める、毎日毎日の教授訓練は動もすると其れなりになり易い、然も自分は相當他方面に事務があるから教授のしとはし訓戒のし放しになり易い、之れが自分の從來である、本學年は此點大に反省して先を豫想し理想を見つむると同時に過去を顧みる事を忘れぬ様にしたい、自分の學級兒童が他の級に比較して成績の良くないのも此所に罪はあるのではなからうか、

反省要項

- 1、教授上矛盾した事はないか。
- 2、自己の責任上缺けたる事はないか。
- 3、計畫に齟齬した事或は實行しない事はないか。
- 4、兒童をして不満を興えた事はないか。
- 5、學級教育理想に反した事はないか。
- 6、兒童の成績の良不良は何れに原因があるか。
- 7、訓練上教師の言動が悪影響したる點はないか。

常に兒童の成績、兒童の態度等より考えて自己教育の効果を反省したい。

二、成績考査

- 1、考査の目的は第一に教師自身の反省資料、第二に兒童の自覺奮發の刺戟、第三に保護者の考査に資するのである。
- 2、考査には知情意の各方面に亘りて着眼すること。
- 3、考査の方法は筆答口答技術發表の外殆ど不斷的に兒童の學習態度及實行狀況を考慮して回数多く行う。
- 4、試問日を豫め告知して行う所謂學期試験は行はざるを原則とし、時折機に應じて突發的に筆

答せしむる方法を取る。

- 5、學習狀態の點檢を十分なし學習の程度方向を調査し成績考査の参考に資する。
- 6、成績考査の結果は其概要を時々公表し兒童の自覺促進に資する。

三、學用品に關する事項

- 1、學用品は丁寧に取り扱わしむ。
- 2 學用品は贅澤なるをさけ實用を尊ぶと雖あまり粗惡なは却つて損失なる故相當なるものを經濟的に使用せしめる。

- 3、學習帖は本校規定のものを使用せしめる。
- 4、毎學期一回以上學用品の檢閲を行い整備を督促する。
- 5、學用品の潤澤如何は學習能率に至大の關係あるを以て濫用を禁する一面潤澤なる事を要求する。

四、學校と家庭との連絡

學校教育の効果の向上に家庭の援助激勵の大に必要であるは今更論する迄もない、學校が如何程苦辛し經營しても一旦家庭の兒童となつた時之れが破壊される時は折角の學校教育も水泡に歸してしまふ。之れに反し學校教育の方針其他が家庭の人の了解する所となり學校教育と家庭教育とが相一致する時に於て兒童は眞に楽しく何等の故障なく伸び／＼したる生活を續け所有する限りの具有する限りの發展成長をなし得、そこに教育効果の顯著なるを認むるを得るのである、故に學校と家庭の相互的連絡、兒童教育に對する赤裸々なる提携こそ最も望む所であつて其境地を作る事に對しても相當計畫せねばならぬ。

連絡機關

- 1、通信簿
成績の通告のみならず廣く各種の連絡機關として其活用を計りたい。

2、家庭訪問

家庭訪問は必ず最少限度一回は行わねばならぬ、兒童の家庭生活の状態を調査し或は保護者よりの見を聞き又學校よりの希望を開陳して協力向上に力め得るは家庭訪問を置いて外にはない。

3、成績物廻覽

毎學期一回技能科其他研究調査物等の廻覽をなし、保護者をして兒童の成績に對する反省考察の資料とする。

4、學級通報

學校に關する事項、學校に關する事項等行事結果希望感想を父兄に通告し學校教育の狀況を推考するの資料とする。

毎月一回以上發刊するを原則とする。

文は平易で読み易い様にする。

兒童に一度讀ましめ父兄の質問に應ぜしめる。

- 5、其他學校及學年にて行ふべき運動會、保護者會、母姉會、等に於て努めて學校家庭の連絡を講ずる。

五、兒童と教師

- 一、兒童と教師とは融合一體不離の狀態であらねばならぬ。

教師は兒童との間に「ある働き」が行われてそこに教育の本質が認められるのである、作用其間に教師あるなく兒童あるなき所に無我の状態に於ける接觸こそ、それが眞の教育實現の時である、教師と兒童とが二元的に働いたり教師は所謂權威の扉を閉じている様では眞の教育はなし得ない、然しこれは助成や指導を無視した謂ではない、兒童は寧ろ教師より以上發展性内在力が旺盛であるかも知れない、然しその内在力は即潜在であるそれを實際活動せしめるのには教師の刺戟や暗示が必要なのである、そこに「爲さんとする力と受けんとする力」「發達せんとする力と助成力との調和」が行われるのである、要するに兒童と教師とが一丸となる事末分の状態にある事不可能の合一體となる事そこに教育が行われるのであると信する、自分は此點に欠けて居りはしないか、敢えて權威の扉を鎖ふうとは思わないが、兒童の心理にびつたりと自分の心理を添はす事に拙である、兒童心理青年心理も知らないが之れが人格の特殊性であろう、どうも兒童の方に遠ざかる傾向がある、之れは兒童が遠ざかるのではなく教師たる自分に暗に落ちない許すべからざる所がある故であろう、本學年には此點に反省自覺して勉めて相調和する所に努力して見たい。

二、共修共榮の態度で指導せねばならぬ。

學習に於ても作業に於て兒童に働かせ學習させて置いて教師は超然之れに顧みざるの態度であつてはならぬ、教師は兒童に學習資料を與え學習指導をなす事は教師自己に對しても修養の資料を得つゝあると考えねばならぬ、即同一資料に對しては兒童の資料たると同時に教師もそれによつて修養すべく心得が必要である、此の如く教師共に提携して相共に同一の琴線に共鳴感激しつゝ修養して行く時自ら教師と兒童との間には尊い云い知れぬ又或る流れ靈的感應が相互的に行われ人格の接觸も道德薰化もよりよく行われ自我の成長はよどみなく勢よく果されるのである、自分は從來の教師觀の如き完全人格や或は完全人に近いものとの考は持たぬ、教師は兒童の同伴者であつて顧問役と考えるのである、従つて自分は修養資料も兒童と共に得自己の成長をはかる事に望を持ち又實際其考で進みたい。

三、自發的創造的學習への指導であらねばならぬ

敬虔的自我の本然の姿たる成長性發展性を遺憾なく満足せしめんとするには兒童の獨創創意を重視せねばならぬ、兒童の自ら工夫し創作して努力的活動を繼續する内に兒童の自我は成長し發展するのである、自發的學習創造的學習は眞に自己活動の旺盛なる働きを満足せしむる、自己進展を體驗せしむる方法である、然し注意すべきは助成の作用である渺茫たる大海洋中に孤舟を浮べ糧と力のあらん限り櫓を操らすのみが彼等兒童の自學ではない、方向の發見を助成し暗礁風浪を教示し研究せしめての大海洋浪でなくてはならぬと思う、従つて徒らなる試行錯誤

を待つ事は到底認容されるものではない、然してこれ等兒童の自發學習には常に教師は道伴れとなつて行く事を忘れてはならぬ、難關あれば共に計り共に力を併せて其打開に努め、感激あれば共に感じ共に悲み教師と兒童と寸時も離れず堅き握手の連鎖あることによつてそこに完全な創造的學習が行われる事であると思う。

四、愛の燃ゆる教育者でなければならぬ。

兒童を愛することは兒童の人格を尊重する事である、教師が兒童の人格を尊重する事は凡そ教育の出發であろう、兒童は自己の人間性を認められた時そこに發奮もし努力も生ずるのである、自己を無視され悪罵された時反抗を生じ自暴に陥るのである、兒童性格將來を慮り眞に兒童の成長をなさしめんとする熱情に對しては如何なる兒童も動かざるを得ないのである、教師は兒童と教師との中に於ける愛の心の相貫であると云いたい教師の熱き心は兒童を如何様にも動かし得るものである。

「先生にして微笑を持たれたら」之れは前年度の自分の學級兒童の他人に對する告白である之れは自分に當の不足を物語つてゐるのではないであらうか、兒童が興味ある生活に不足を感じてゐる事を證しているのではなからうかと思う、然し自分としては愛なき教育はなさざるに如かずと迄理解している、只自分の人格其物に自ら表し方の拙なるは自覺しているのであるから何時か自分の精神を理會される時機もあらうと期待するより外はない、然し一面卒業兒童にして師恩に感鳴の結果文通する者多く常に人格感化の恩恵を感得せるの態度にあることは貧弱なる自分として稍意を強うするのである。

五、教師は時代の先驅者であらねばならぬ。

教育作用をして十分なる効果を得るには教師の修養が第一の要件である、時代の進歩に遅れず新らしい豊富な而も穩健なる知識思想の所有は教師たるの要件である……自分は之の要件に適した人ではない、時代に後れ勝ちの者である、それを自覺する時それだけ修養の必要を痛感するのである。

六、教育に精進する所教育の効果は自ら得られる。

教師は兒童に對し權威を持たねばならぬ、然し權威とは自ら求めた權威ではなく脅威に近い人格ではない、教師が教育に向つて精進する時自ら生ずる徳である、教師は自己に權威あるべく修養せねばならぬ、即自己の價值生活をより向上せしめ責任ある自覺ある指導と體現とがあらねばならぬ、兒童が教師の權威を信じ信服してこそ人格の接觸は行われるのである、而して其權威は教師が教育に向つて精進する事より外に得る途はない、眞の教育の効果は教師に權威のあることによりて生ずる、教育に精進する所自ら効果は收め得られるのである、斯く考えた所

に於て自分は果して教育に精進しているであらうか大に反省すべきである。

六、學級事務

「正確、敏速」を標語とする

一、日々の事務

- 1、成績品の所理、必ず採點簿に記入する。
- 2、翌日の教材精査。
- 3、出席簿記入。
- 4、學級日誌の指導。
- 5、掃除の共働。
- 6、遅刻早退簿の檢閲。

二、毎週の事務

- 1、教案及週録作製と其週の反省。
- 2、學習帳の指導、毎週一二教科順に行う。
- 3、背面黑板揭示指導。
- 4、缺席兒童に關する調査と出席督勵。

三、毎月の事務

- 5、各種記録帳簿の檢閲。
- 1、出席簿統計。
- 2、出席簿調製。
- 3、勤怠簿記入。
- 4、授業料徴收取扱。
- 5、學友會費取扱。
- 6、旅行費積立金取扱。
- 7、學級通報發行
- 8、學習行事豫定作製。
- 9、會計簿檢閲

四、毎學期の事務

- 1、學期末成績考査。
- 2、成績一覽表作製
- 3、成績簿記入。
- 4、通信簿記入。

5、休暇課題の指導

6、家庭訪問

五、毎學年の事務

1、成績簿整理。

2、缺席遅刻早退簿整理。

3、通信簿記入。

4、學籍簿整理。

5、個性調査簿整理。

6、身體検査表整理。

七、省察資料。餘白部へ記入せるもの

一、級訓

四月、共働、整頓 五月、何のための登校か 朝夕挨拶は人情の一端 六月、萬事積極的に行はう 七月、人格の尊嚴を自覺しているか 九月、與えらるゝをまたず自ら求めて働かう。

二、保護者會

九月二十三日學年保護者に出席せられた我學級兒童保護者

何某の父 何某、何某の母 何某

何某の兄 何某 何某の祖父 何某

何某の父及祖父 何某何某

何某の母及姉 何某及何某

何某の祖母 何某 以上の十名

保護者よりの希望事項

1、宮城遙拜神社參拜は日曜日でも行つて下さう。

2、思想の指導を顧慮して下さい。

3、經濟生活に關する指導を願います。

保護への希望事項

1、金錢出納簿の檢閲を毎月必ず行つて下さう。

2、活動寫眞は禁じて下さう。

3、家庭作業を十分命じて下さう。

4、毎日一時間は最小限度として學習時間を與えて下さう。

- 5、放課時間が定まっているからそれから計算して道草をしてはいなかったかを考慮して下さい。
- 6、旅行、修養團等には萬障を排して参加させて下さい。
- 7、學級通報の記事に關しては兒童に質問して十分了解して下さい。
- 8、兒童教育について不審な事があれば何時でも學校へ相談して下さい。

學級經營の根本義と其の立案の實際(終)

昭和四年三月三十日 初版印刷
 昭和四年四月五日 初版發行

學級經營の根本義と其の立案の實際(奥附)
 定價金貳圓九拾錢



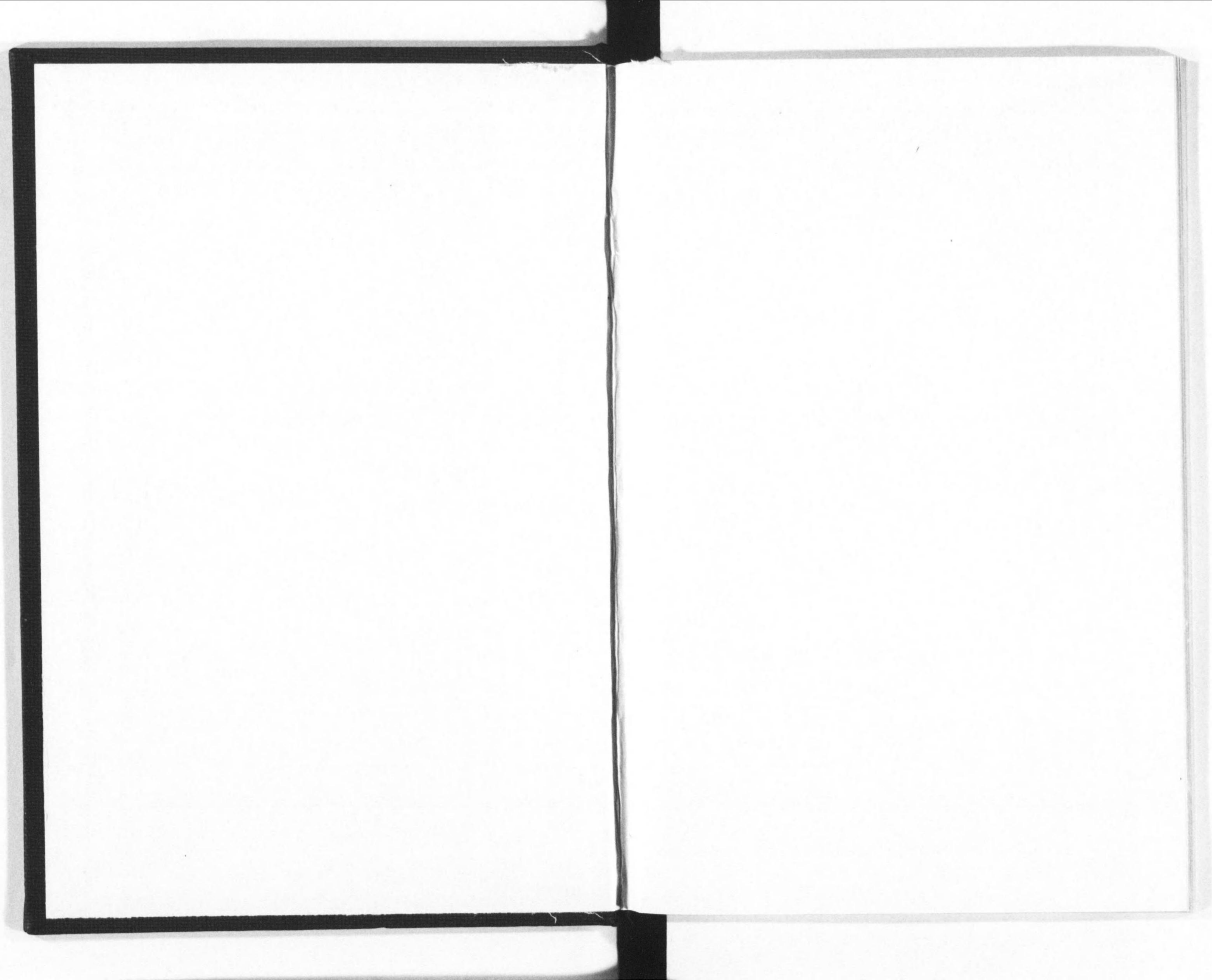
著者 安部清見
 東京市京橋區入舟町五丁目一番地
 發行者 藤原惣太郎
 東京市京橋區本湊町七番地
 印刷者 山崎治兵衛

發行所 明治圖書株式會社

東京市京橋區入舟町五番地
 振替東京一八五一三番
 東京 林六合館 大阪 柳原書店
 名古屋 川瀬書店 久留米市 菊竹金文堂 佐賀市 大坪惇信堂

(所刷印社星七 部刷印社會式株書圖治明)

IT 3747



終